

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教育学研究科
大項目	11 教員・教員組織(研究科)
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2013年度以降の教育学部再編に併せて研究科の教員組織の再整備を進める。	→「将来ビジョン委員会の開催頻度」	B	B	B	A	A
2. 研究科教員の任用に関する学部内の内規・申し合わせの作成	→「大学院問題検討委員会の開催頻度」「研究科委員会での検討」	C	C	C	B	B
3. 教員の資質の向上と授業改善を図るため、FD研究会を開催する。	→「FD活動にかかわる研修会等の開催頻度と参加者数」	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度以降の教育学部の再編に併せ、研究科の教育課程と教員組織の構成について、学部長室会、大学院問題検討委員会、教育学研究科委員会で検討し、再整備をおこなった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教員組織の再整備の結果、幼児教育コース、初等・中等コース、臨床教育コースの3つのコースの教育課程の科目を、教育学部の大部分の教員が担当することになり、学部との連携がより密になった。開講科目数に比して大学院生の数が少ないため、受講生が1人の科目や、不開講科目が多くなることが予想され、その検討が課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学院生の履修状況を見ながら、開講科目の調整を行うと共に、教員組織の適切性を検討する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科教員の任用に関する内規・申し合わせについては、2012年度に研究科委員長を中心に、学部長室会を経て、研究科委員会で検討、承認された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2012年度に研究科委員会で承認された内規・申し合わせ事項に従って、教員の任用が行われ、2013年度の教員組織が研究科委員会で承認された。2013年度以前の任用条件より厳しい条件となっており、任用基準に差異が生じたことが課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2012年に設けられた内規・申し合わせが適切に運用されているかを検証し、課題があれば、修正を行っていく。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた 目標を設定した年度以降、毎年2回(学期毎)、FD委員の提案に基づいてFD研究会を実施しており、研究科委員会の大多数のメンバーがこれに参加している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 目標を設定した年度から毎年、FD研究会を開催し、実施回数上は、目標を達成しており、その都度、有意義ではあるが、時には学部のFD研究会と合同に開催されることもあり、研究科独自の課題に基づくFD研究会となっているとは言い難い内容の時もある。研究科委員会独自の課題に対応した教員の質の向上と授業改善を目指す機会となるよう、内容の検討が課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究科委員会のFD委員を中心に、研究科の課題に対応したテーマでのFD研究会を計画的に開催するよう検討する。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	